

大同工業大学 正会員 水澤富作
名古屋大学 正会員 梶田建夫

1.はじめに 有限帶板法がY.K.Cheung¹⁾により提案されてから数年が経過し、その後種々の改良や応用が行われて現在では構造解析手法の一つとしてほぼ確立されたものとなっている。(しかし、適用する問題によっては、解析精度と経済性などについて検討すべき点が多く残っているように思われる。たとえば、弾塑性解析とか、二で取り扱う斜板のような問題である。これらの問題では有限帶板法の大きな特徴である軽量性が利用できなくなってしまう点から、有限帶板法の適用する二つの利点が少なくなった。しかしながら、次元数を一つ下げることができるなどという点でその有用性は残されていると思われる。)

斜板の曲げ解析への有限帶板法の適用を行った研究があるが、解析精度を高めるために、多くの帶板分割で級数項を取ること、未知数が多くなってしまうことより、あまり精度のよい結果は得られていない。

著者らは²⁾、高次の連続性をもつB-SPLINE関数を区分数的領域の基底関数として用いた離散化手法(SPLINE要素法)により、斜板に関する一連の研究を行ってきた。最近、Cheung³⁾は、このB-SPLINE関数を用いたSPLINE有限帶板法を提案し、長方形板や箱形の曲げ解析に適用している。Cheung³⁾のSPLINE有限帶板法では、帯板の長手方向の基底関数に3次のB-SPLINE関数を仮定し、その横手方向には3次の多項式を用いている。

本文では、B-SPLINE関数とFourier級数を用いたSPLINE帶板法について提案し、斜方性斜板の曲げおよび自由振動解析への適用について述べる。

2. SPLINE 帯板法による定式化 斜板の離散化要素として、Fig. 1に示すような斜帶板要素を考える。二の帶板要素の座標関数として、 x 軸方向には、はりの固有関数 $\gamma_m(\xi)$ を仮定し、また、 y 軸方向にB-SPLINE関数 $S(x)$ を用いる。したがって、二の帶板要素の座標関数は、

$$w = \sum_{m=1}^r S(x) \gamma_m(y) \quad \dots (1),$$

ただし、SPLINE関数は、次のように定義される。

$$S(x) = \sum_{n=1}^{i_x} C_n N_{n,k}(x), \quad i_x = k + M_x - 1 \quad \dots (2)$$

ここで、 $N_{n,k}(x)$ は正规化されたB-SPLINE関数、 $k-1$ はSPLINE次数、 M_x は帶板の数、また C_n はB-SPLINE関数の係数パラメータである。(したがって、式(2)を式(1)に代入すれば、

$$W_{mm}(x, y) = \sum_{m=1}^r \sum_{n=1}^{i_x} C_{mn} N_{n,k}(x) \gamma_m(y) = \sum_{m=1}^r [\phi] \gamma_m(y) [\delta]_m$$

ここで、 $[\phi] = [N_{1,k}(x) \ N_{2,k}(x) \ \dots \ N_{i_x,k}(x)]$, ..., (3)

$[\delta]^T = \{C_{m1} \ C_{m2} \ \dots \ C_{mi_x}\}$ であり、 \cdot は級数項である。

帶板要素 i, j におけるB-SPLINE関数がFig. 1に示されているが、従来の有限帶板法と異なり、節線パラメータの代わりに、SPLINE帶板法では、二の帶板内で仮定されるB-SPLINE関数の係数パラメータを未知数にしてしまう。

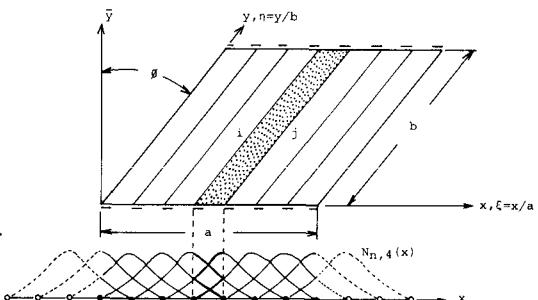


Fig. 1 spline strip idealization for skew plate.

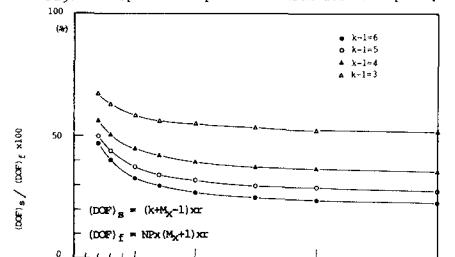


Fig. 2 Comparison of the total number of degrees of freedom by the spline strip method compared with ordinary finite strip method which has several nodal line parameters such as W_i , A_{ij} , B_{ij} , ...

参考文献

- 1) Y.K. Cheung, 'Finite strip method in structural analysis', Pergamon Press, 1976.

2) 水澤富作、梶田建夫、「B-Spline関数を用いた斜板の自由振動解析について」、土木学会論文報告集, No.192, pp.13-16.

3) Y.K. Cheung, S.C. Fan and C.Q. Wu, 'Spline finite strip in structural analysis', Proc. of Int. Conf. on Finite Element Methods, 2-6 August, Shanghai, China, pp. 704-709, 1982.

等分布荷重のひずみエネルギー U , 運動エネルギー T および等分布荷重による外カポテンシャル V はそれぞれ次元の斜交座標 (ξ, η) で示すと、次のように表わされる。
 $U = (D/2) \sec^2 \beta (b/a^3) \int_0^1 \int_0^1 [(\partial^2 W / \partial \xi^2)^2 - 2 \lambda \sin \theta (\partial^2 W / \partial \xi \partial \eta + \lambda^2 \partial^2 W / \partial \eta^2)^2 - 2(1-\nu) \lambda^2 \cos^2 \theta (\partial^2 W / \partial \xi^2)^2 W / \partial \eta^2 - (\partial^2 W / \partial \xi \partial \eta)^2] d\xi d\eta \dots (4)$,
 $T = (1/2) \rho a b u^2 \cos^2 \theta \int_0^1 \int_0^1 W^2 d\xi d\eta \dots (5)$, $V = (1/2) \rho a b \cos^2 \theta \int_0^1 \int_0^1 q W d\xi d\eta \dots (6)$ 。ここで、 θ は斜角、 D は板剛度、 b はボルトシング比、 a は板厚、 ρ は密度、 q は等分布荷重強度、また λ は内振動数である。 $\lambda = \alpha/b$, $\beta = \pi a/b$ 。

式(1)で定義した変位関数において、SPLINE 関数 $S(\xi)$ は与えられた境界条件を満たさない性質の関数であるので、一般的な境界条件の取り扱いを考慮して、仮想ばかり法²⁾を用いる。すなはち、与えられた幾何学的境界条件に相当する仮想ばかりを導入し、それと W と回転角 θ とに付随する仮想ばかりの変数を引ひき、 β とする。

$$U_b = (1/2) \{ \int_0^1 [(\partial W / \partial \xi)^2 + (\beta/a^2)(\partial W / \partial \xi)^2] |_{\xi=0} d\xi + \int_0^1 [(\partial W / \partial \xi)^2 + (\beta/a^2)(\partial W / \partial \xi)^2] |_{\xi=1} d\xi \} \dots (7)$$

したがって、二の斜板の全ポテンシャルエネルギー Π は、 $\Pi = U + U_b - T - V \dots (8)$ で与えられる。

式(3)を上式に代入し、これにエネルギー変分法を適用すれば、曲げ問題および自由振動問題が容易に近似化される。

図2には、帯板の分割数を同じにしておいた場合での、従来の有限帶板法の系の未知数に対する本手法の自由度数の比較について示した。これより、本手法では、従来の有限帶板法と比較して、未知数を半分以下に低減することができる可能性がある。

3. 数値計算例 および考察

本数値計算例では、帯板要素の両端での境界条件が単純支持された場合について検討を行う。したがって、基底固有数 $Y_m(\xi)$ は、 $Y_m(\xi) = \sin(m\pi\xi/b) \dots (9)$

である。ここで、 b は帯板の長さである。

a) 等分布荷重を受ける斜板の曲げ解析 Table 1

は、相対する2辺がそれ自体で自由で単純支持された斜板のためかと主モーメントの収束性に与えられた帯板の数、 M_x の影響が示されている。これより、帯板の数を増すと、それとともに平行して一様な収束性が示されていくが、主モーメントは、斜角が入ってくるとからなりずして一様な収束性を示さない。これは、基底固有数として用いたばかりの固有函数の性質によるものと考えられる。

b) 斜板の自由振動解析 SPLINE 板法による自由振動解析

では、振動数パラメータ $M = \frac{\omega a^2}{\sqrt{D}} \sqrt{Pr/D}$ の収束性に与えられた SPLINE 次数と帯板の数による影響がさほど大きくなないので、Table 2 には、 M の収束性に与えられた級数項の影響について示した。これより、級数項を増すと、斜角の増大に対して安定した一様な収束状態が得られた。

4. あとがき 斜板解析への有限帶板法の適用にあたっては、級数の直交性が得られないことで、一般に系の未知数が増大してくる。SPLINE 帯板法では、同一の帯板の数であれば、従来の有限帶板法と比較して未知数を大幅に低減することができた。SPLINE 次数を変化させてることにより簡単に高次の帯板要素を作り出すことができた。斜板の曲げおよび自由振動解析より、安定した収束性と精度が得られた。

Table 1. The effect of the number of strips on the results of skew plate ($\lambda=1.0$ and $\nu=0.3$) with two parallel edges simply supported and the other two free to uniform load q . $k=1$ and $r=1$.

β	Number of strips M_x	Order of matrix (DOF)	W		M_1		M_2	
			$(a/2, a/2)$	$(0, a/2)$	$(a/2, a/2)$	$(0, a/2)$	$(a/2, a/2)$	$(0, a/2)$
0°	2	55	1.3119	1.5015	1.244	3.289	1.333	
	4	77	1.3095	1.5012	1.228	2.793	1.318	
	6	99	1.3094	1.5011	1.227	2.753	1.314	
	8	121	1.3094	1.5011	1.226	2.733	1.313	
	10	143	1.3094	1.5011	1.226	2.724	1.312	
	12	165	1.3094	1.5011	1.226	2.718	1.311	
Timoshenko's values			1.309	1.509	1.225	2.71	1.318	
30°	2	55	0.7834	0.9819	0.9681	1.762	0.9739	
	4	77	0.7885	0.9885	0.9627	1.701	0.9658	
	6	99	0.7893	0.9907	0.9574	1.654	0.9727	
	8	121	0.7896	0.9914	0.9611	1.660	0.9737	
	10	143	0.7897	0.9917	0.9579	1.627	0.9734	
	12	165	0.7898	0.9919	0.9584	1.629	0.9731	
Spline Element Method 324			0.7909	0.9998	0.9619	-	0.9321	
45°	2	55	0.3748	0.5541	0.6615	0.04952	0.6179	
	4	77	0.3839	0.5701	0.6707	0.05364	0.6287	
	6	99	0.3869	0.5761	0.6711	0.05629	0.6499	
	8	121	0.3881	0.5786	0.6835	0.06322	0.6538	
	10	143	0.3886	0.5787	0.6762	0.05788	0.6518	
	12	165	0.3889	0.5803	0.6764	0.05803	0.6485	
Spline Element Method 324			0.3925	0.5973	0.6886	-	0.5917	
Multipliers			$(10^{-2}qa^4/D)$	$10^{-1}qa^4$	$10^{-2}qa^2$	$10^{-1}qa^2$	$10^{-1}qa^2$	

Table 2. The effect of increment of series terms on natural frequency parameter of skew plate ($\lambda=1.0$) with two parallel edges simply supported and the other two free to uniform load q . $k=1$ and $M_x=4$

β	Number of series r	Order of matrix (DOF)	Modes				
			1st	2nd	3rd	4th	5th
0°	1	10	0.97586	1.6348	3.7211	-	-
	3	30	0.97586	1.6348	3.7211	3.9460	4.7356
	Leissa's Values		0.97586	1.6348	3.7211	3.9460	4.7356
	FSM(4DOF) (8 strips, $r=1$)	16	0.9766	1.636	3.7223	-	-
	1	10	1.262	2.468	-	5.575	-
	3	30	1.240	1.925	3.801	5.088	6.594
30°	9	90	1.234	1.840	3.705	5.030	6.306
	15	150	1.233	1.822	3.685	5.021	6.269
	21	210	1.232	1.815	3.676	5.017	6.254
	FSM(4DOF) (8 strips, $r=1$)	16	1.263	2.469	-	5.577	-
	FSM(12DOF) (mesh:8x8)	240	1.240	1.805	3.612	-	-
	Spline Element Method	256	1.231	1.794	3.650	5.005	6.212
45°	1	10	1.818	4.081	-	9.188	-
	3	30	1.729	2.464	4.539	7.120	9.520
	9	90	1.685	2.007	4.174	6.301	8.242
	15	150	1.678	2.157	4.117	6.208	8.148
	21	210	1.673	2.121	4.075	6.143	8.086
	FSM(4DOF) (8 strips, $r=1$)	16	1.820	4.056	-	9.193	-
FSM(12DOF) (mesh:8x8)			1.704	2.114	3.954	-	-
Spline Element Method			1.663	2.068	4.017	6.046	7.986